

# リアル開催の「バリシップ2023」などの イベントが賑わいを生み、市民の元気に

## 物価高騰が続く中、市民生活と経済活 動を「守る・応援する」ための支援策を

### 「(仮称)今治版ネウボラ拠点施設整備基本構想」を 策定し、様々な機能を一体化した複合施設を目指す

新型コロナウイルスの感染症法上の取扱いが5月8日、2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類に移行後、社会経済活動が本格的に再起動し、各地の夏祭り等のイベントも、コロナ前と同じ賑わいを取り戻している。今治市においても、国際海事展「バリシップ」が、4年ぶりのリアルで盛大に開催されたほか、「せとうちみなとマルシェ」とコラボした「弘前ねぶた in 今治」や今治市民のまつり「おんまく」などの熱気と賑わいが地元を大いに盛り上げた。

そこで、今治市の徳永繁樹市長に登場いただき、これら5月以降の様々なイベントの成果と感動に加えて、5類移行後に感染が再拡大している新型コロナウイルス対策や物価高騰が続く中での暮らしや事業者への支援策、「瀬戸内クロスポイント構想」の実現に向けた株今治あきない商社の設立、「スマートシティ今治」の推進、「こどもが真ん中」視点の子育て支援策などについて語ってもらった。

### 「夜マルシェ」も開催した「せとうちみなと マルシェ」をさらに進化させ定着させたい

— 新型コロナウイルスが5月8日か  
ら、5類に移行し、反転攻勢、社  
会経済が本格的に再起動していま  
す。今治市では5月に「バリシッ  
プ」が4年ぶりのリアル開催とな  
り、「おんまく」、「今治ジャスタ  
ウン」、「夜マルシェ」、「スリーデ

ーマーチ」など、久しぶりに熱気  
が戻ってきました。様々なイベン  
トの盛り上がり、市民の喜び、感  
動はいかがですか。

徳永 5月以降、本市では、今  
治港を中心とする中心市街地の賑  
わい創出をテーマに、様々なイベ

ントを開催してきました。

イベントの幕開けは、5月25日  
からの3日間、4年ぶりのリアル  
開催となった国際海事展「バリシ  
ップ2023」です。コロナの5  
類移行後、最初の大型イベントで  
あったため、どれぐらいの人にこ  
参加いただけるのか、正直心配も  
ありましたが、15の国から、過去  
最多となる351の企業・団体が  
今治に集結し、展示会の一般公開



や工場見学会などの様々なイベントを通じて、4万6,000人を超える多くの皆様に、国内最大の「海事都市 今治」を肌で感じていただくことができました。

学生さんも多く参加され、「久しぶりのバリシップなので楽しみにしていた」、「たくさんの会社の技術が一度に見られて良かった」といった声をいただくなど、「海

事都市 今治」の未来を担う人材の育成にも貢献できたのではないかと思います。

今治の元氣と明るさの回復に向けて、この機運を更に高めようと、6月には、本市の姉妹都市である群馬県太田市に繋いでいただいたご縁から、青森県弘前市にご協力いただき、国指定重要無形民俗文化財「弘前ねぶた」の愛媛県初上陸となる「弘前ねぶた in 今治」を「せとうちみなとマルシェ」とのコラボレーションで開催しました。

夜の帳に浮かび上がる高さ8mの巨大ねぶたが、市内の広小路を運行し、「回る」、「昇降する」、「折りたたむ」を繰り返しながら勇壮に運行する姿は、数多くの観客を魅了し、マルシェと合わせて、2

地域の持続的発展に全力で取り組む

**徳永 繁樹** 今治市長

船主と共に伸びる



 今治造船株式会社



パリシップ2023(上)、第26回今治市民のまつり「おんまく」

大賞に輝いた『汝、星のごとく』の作者、風良ゆうさんをお招きしたトークイベントがあり、こちらも大好評でしたので、ぜひ、今後の映像化を期待したいと思っています。

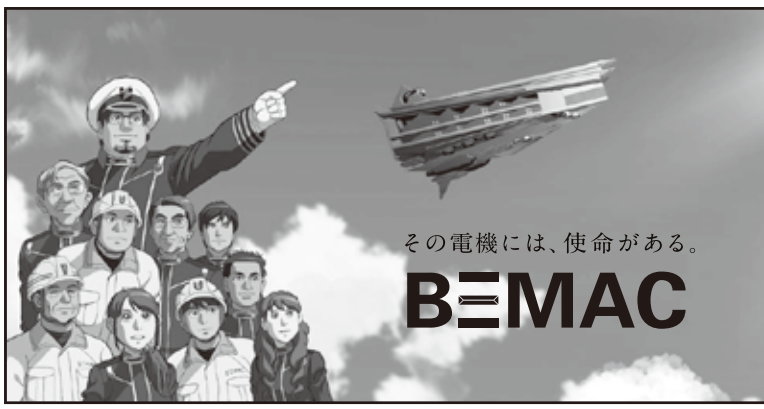
一方で、長い歴史に幕を閉じたのが「今治ジャズタウン」です。1999年の瀬戸内しまなみ海道開通記念イベントとして始まり、「音楽の流れるまちづくり」を指し、ジャズをこよなく愛する市民の皆様が組織する「今治ジャズタウン実行委員会」により運営されてきました。

トッププレイヤーが繰り広げる華やかな演奏、タウンステージでの臨場感溢れる生演奏など、音楽の息吹を感じる素晴らしい場として、実に四半世紀にわたって多くの市民に感動を与え、その心を癒やしていただきましたが、第25回目である今年度をもって閉幕することとなり、有終の美を飾る8月26日、27日には、約1,000人の観客が、名残を惜しみつつ最後の

日間で約7万人の皆様は、なかなか触れる機会が無い伝統文化を堪能していただきました。  
ねぶたの盛り上がりは、今治市民のまつり「おんまく」へと引き継がれます。今年の「おんまく」は、「再生〜REBORN〜」をテーマに、8月5日、6日の2日間

にわたって盛大に開催されました。明るい未来に向けて舵を切り、変化の波を乗り越えていく、そして、新しい時代を再構築していくという2023年にふさわしいテーマのもと、25万人もの賑わいが創出されました。今治市民のまつり振興会の榎垣幸人会長をはじめ、スタッフ、商工会議所の皆様には、まさに献身的なご尽力をいただき、心よりお礼を申し上げます。

おんまく花火の開始前には、この瀬戸内を舞台とし、物語に登場する花火大会のモデルも「おんまく花火」という、2023年本屋



その電機には、使命がある。

**BEMAC**

**BEMAC 株式会社**

今治本社・みらい工場

愛媛県今治市野間甲 105 番地

Tel : 0898-25-8282

www.bemac-jp.com





のジャズタウンを楽しみました。  
長年にわたり、今治ジャズタウンに関わってくださった全ての皆様に、深く感謝いたしますとともに、皆様の想いを紡いできたこの音楽活動が、近い将来、新たなステージで再び花開くことを願っています。

季節が変わって9月30日からの2日間、爽やかな秋晴れのもとで「瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ」が開催され、県内外か

ら2,342人のウォーカーの皆様にご参加いただきました。今回の大会では、今治市から尾道市へのコースがなくなりましたが、新たに広島県呉市と連携したコースや、今治市内の魅力体験するコースなど、12のコース設定となりました。瀬戸内の風を感じながら

「しまなみ海道」、「ゆめしま海道」を歩くことで、心と体の健康づくりに取り組むだけでなく、自然や歴史、地域の人々との触れ合いに

もご満足いただけたと思います。

また、スリーデーマーチの1か月前からは、市内の小中学生が遠足などの際に大会ゼッケンを着用する「いまばり散歩」を企画し、1,451人の児童にも大会をPRしていただきました。こうした取組みを来年度以降も継続し、市民の皆様と一緒に頑張って、大会へのエールを送っていききたいと考えています。

11月には、昨年からスタ

ートした「せとうちみなとマルシエ」が1周年を迎えます。毎回1万人を超える方々が来場され、今治の新しい文化として定着しつつありますが、6月24日から8月26日までの間は、夕涼みの中で、潮風が心地よい今治港をより楽しんでいた「夜マルシエ」を開催しました。

「夜マルシエ」では、海のコンコースに「海の邸宅レストラン」がオープンし、瀬戸内海や来島海峡大橋を望む非日常感に溢れた贅沢なロケーションのもと、一流シェフが振る舞うマルシエ限定の料理をご堪能いただきました。同時期には、今治銀座商店街で「土曜夜市」もありましたので、夜の港から街中にかけて大きな賑わいが生み出されたところです。

これからも、このマルシエが、今治港周辺のみならず中心市街地の核となり、ひいては市域全体に波及効果をもたらすようにブラッシュアップを重ね、進化し続けるイベントとして定着するよう、実行委員会の方々とともに趣向を凝

せとうちみなとマルシエ



SETOUCHI MINATO Marché  
せとうちみなとマルシエ

せとうちみなとマルシエ実行委員会  
(公益社団法人今治地方観光協会内事務局)  
〒794-0013 今治市片原町一丁目100番地3  
TEL (0898)22-0909 FAX (0898)22-0929

〒794-0013 今治市片原町一丁目100-3  
みなと交流センター1F TEL (0898)35-2292  
URL <https://setouchi-mm.com/>  
MAIL [info@setouchi-mm.com](mailto:info@setouchi-mm.com)



らしてまいります。

引き続き、こうした様々なイベントを通じて賑わいを創出することと、今治港を核とする中心市街地を「交流と経済循環の拠点」と

して再構築し、持続的な発展を見据えながら、しっかりと、そして、着実に歩を進め、市民の皆様と「瀬戸内の新しい風」を吹かせ続けていきたいと思っています。

「特に休日の救急病院の受診が急増し、患者さんに長時間お待ちいただいている」との声を伺っています。

## 新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、改めて基本的な感染対策の徹底を

ただし、心配なのはコ

ロナの感染再拡大です。「定点把握」、1週間ごとの発表となったため、県民の関心は薄れていますが、感染者数の増加傾向が続いています。コロナ以外の感染症もあり、発熱外来は相当逼迫しています。県も「感染回避行動を踏まえた生活」を呼び掛けていますが、「ウイズ・コロナ」で社会を回しながら、市民にはどのような感染対策を求めますか。

**徳永** 5類移行後は、これまでの全数把握（毎日公表）から定点把握（週1回の公表）に変わり、月曜日から日曜日の1週間に、定点医療機関において新型コロナウイルスイルス感染症と診断された患者数

が公表されることになりました。

そのため、比較が困難ではありますが、愛媛県が示したデータによりますと、第8波のピーク時には県内の定点当り患者報告数が42・33人であったのに対し、現在は20人弱の報告数で推移していることから、第8波ピーク時の半分の程度の感染状況とみることもできます。

しかしながら、新型コロナへの関心が薄れ、医療機関を受診していない患者が多いことを考慮すると、実際の感染者数は、もともと多いのではないかと考えられます。今治圏域では、県と同様に7月以降は感染者数の増加傾向が続いており、医療現場の方々からは、

このことを受け、本市では、これまでの知見を活かした対策を速やかに講じることとし、今治市医師会にご協力を仰ぎ、休日とお盆に発熱外来を開設しました。さらに、職場での集団感染を防止するため、市内の事業所に抗原検査キットの無償配布を実施し、既に300を超える事業所に対して、1万個以上の検査キットを配布しています。

市民の皆様が積極的に自主検査に取り組んでいただいたこともあり、今治圏域の感染状況は、県平均を下回る水準で推移しています。

今後も、各種イベントの再開により、人の往来が増加することが予想されますので、引き続き、定期的な換気、こまめな手洗い、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策の徹底を呼び掛けてまいります。

# 一般社団法人 今治市医師会

会長 木本 眞

事務局:〒794-0026 愛媛県今治市別宮町7丁目1番40号

また、感染対策の大きな柱であるワクチン接種は、開始から現在に至るまで約2年半もの間、幾度となく感染拡大が起こり、医療が逼迫する状況下でありながらも、今治市医師会をはじめ、現場で奮闘する医療従事者の皆様の多大なご尽力により、一度も途切れることなく、希望する人が接種可能な体制を維持することができています。

改めて、関係者の皆様に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

現状を整理しますと、市民の約86%の方が初回接種を終了しており、65歳以上の高齢者の方では、約93%（約5万人）が接種済みとなっています。

しかし、「65歳以上」、「64歳以下の基礎疾患をお持ちの方」、「医療従事者及び高齢者施設等の従事者」を対象とした『2023年春開始接種』では、65歳以上の方の接種が約53%にとどまっている状況です。

9月20日からは、生後6か月以上の全員を対象とした『2023

年秋開始接種』が実施されており、今回の接種では、現在の流行株であるXBB系統を含有する1価ワクチンの接種が可能となつています。

感染の拡大は、例年、年末年始にピークを迎えているため、国においても、特に重症化リスクの高い高齢者等に対して接種をお勧めしていますが、費用の面におきましても、現在は「特例臨時接種」として、2024年3月末までは全ての方が自己負担なしで接種できます。

しかしながら、国から供給予定

## 物価高騰へのさらなる支援に努め、特に影響が大きい子育て世帯の負担を軽減

春闘以来、賃上げの動きが進んできたものの、食品等の物価高騰、ガソリン代の値上げなどが家計を直撃し、実質賃金は16カ月連続で前年同月を下回っています。市民生活と経済活動を守る、応援するという意味では、どう取り組んでこれら、今後の支援策は、

のワクチンの量が、接種対象者数に対してかなり不足しており、現在、「予約がとりにくい」状態となつていますので、引き続き、愛媛県を通じて、早急に追加の供給スケジュールを示していただけるよう、国へ要望してまいります。

2024年4月以降の接種体制については、今後、議論されていくこととなりますが、まずは、ご自身や身近な方々を守るため、接種を希望される方は早期の接種をご検討の上、重症化予防に努めていただきたいと思います。

徳永 本市では、市民や事業者

の皆様に対して、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、市民生活と経済活動を「守る・応援する」ための様々な支援策に取り組んできました。事業者向けの支援策としては、地域全体の課題であるCN（カー



imabari towel  
Japan

今治タオル工業組合  
www.imabarityowel.jp

ボンニユートラル)・DX(デジタルトランスフォーメーション)・SDGsの推進に係る課題解決に資する設備投資や、ウイズコロナに対応した生産基盤の整備をはじめ、省力化・省人化等に資する設備投資を支援する「サステナブル・リカバリー設備投資支援事業」、事業者の展示会等への出張を支援する「展示会等出張支援事業」など、コロナ禍においても積極的に事業を展開される事業者をバックアップしてきました。

さらに、各業界の実態に即した支援策として、「トラック輸送燃料費高騰対応事業」、「今治タオル原材料費高騰対応事業」、「伝統産業燃料費高騰対応事業」、「緊急経済対策特別支援資金利子補給」など、地域の経済活動と雇用を守る施策を実施してきました。

また、「飲食店プレミアムクーポン事業」や「今治キャッシュレス決済プレミアム還元事業」によって、市民の皆様の消費も喚起してきましたが、円安などにより物価や原油価格が高騰し、地域の暮

らしや経済を取り巻く環境は、まだまだ厳しいものがあります。

特に、ガソリンなどの燃料油価格の高騰は深刻で、国は、激変緩和対策事業による緩和措置を講じていますが、今後も全国的に燃料価格の高騰が続くことが懸念される中、市民生活に対する直接的な支援の必要性を感じていました。

そこで、9月の補正予算では、ガソリンなどの燃料費高騰による家計への負担を少しでも軽減することを目的として、市内全世帯に5,000円分の燃料クーポン券を配布する事業を計上し、議決をいただいたところです。

今後、9月30日時点で本市に住民票が登録されている全ての世帯(約7万6,500世帯)に対して、11月から順次クーポンを発送し、登録された市内のガソリンスタンド等において、ガソリンや軽油、灯油の購入に利用していただくことにより、家計への支援に加えて、域内消費による経済循環という効果を見込んでいます。

一方で、運転免許証を返納され



あったか〜い、心のおつきあい。

JAおちしほばり  
グループ



“未来へ広がる、情報ネットワーク”



四国通建株式会社

本社/愛媛県今治市南大門町1丁目1-15 支店/松山・高松・徳島・高知  
営業所/新居浜・西条・宇和島  
電話 代表(0898)32-5555 URL <https://www.stk.co.jp/>



た方や移動に制約がある方でも、気軽に買物や通院などが出来るよう、既存の公共交通と「mobi」や「チョイソコ」といった新たなモビリティサービス等を組み合わせることで、日々の暮らしを支える交通手段の確保も進めていきます。

また、子育て世帯が物価高騰の影響を大きく受けている中で、本市では、これまでも経済的支援として、妊娠届出と出生届出の時機を捉えて、それぞれ5万円を給付する「出産・子育て応援金」や、「今治市子どもが真ん中応援券(第1子)」、「今治市愛顔っ子応援券(第2子以降)」などにより、物価高騰の影響が大きい出産育児関連用品の購入と子育て支援サービスに係る負担の軽減を図ってきました。

これに加えて9月の補正予算では、物価高騰への支援とともに、地域における消費を喚起し、今治港周辺のにぎわいの創出を図るため、市内の18歳以下の児童がいる世帯(約1万2,000世帯)に

対して、「せとうちみなとマルシェ」内の店舗で利用できる「子育て応援せとうちみなとマルシェクーポン(5,000円分)」を配布する予算が成立しました。このクーポンは、10月下旬の配

布を目指して準備を進めているところですが、これからも、市民の皆様の安心な暮らしと、事業者の皆様との商いができる環境を整えることを最優先に、効果的な施策を展開していきます。

## 創出するために主導的な役割を

「瀬戸内クロスポイント構想」に関連しては、(株)今治あきない商社が設立され、今後、今治の魅力を全国に発信するとともに、各種プロモーションなどを展開します。今回の商社の設立の目的やスキーム、具体的な事業内容などをお願いします。

徳永 瀬戸内の「へそ」ともいえる本市の地理的な優位性を武器として、資金、消費、投資の流出を流入に変え、地域で所得を循環させる「瀬戸内クロスポイント構想」の実現に向け、今年6月、(株)今治あきない商社の設立という大きな第一歩を踏み出しました。

都市は「消費するまち」、地方

は「生産と物流のまち」であり、今治あきない商社には、生産と物流を握る地方の強み、今治の強みを最大限に活かしながら、様々な分野で競争できる「稼ぐまち今治」を目指し、今治産品の販路拡大と地域経済循環を牽引することが求められています。

設立にあたっては、昨年度、(株)フレンドシップえひめと(株)大和総研の合同による「地域商社立上げのための調査業務」において、具体的な事業内容や設立・運営手法の検討等を行うとともに、市内事業者の皆様から、生の声をお聞かせいただきました。

そのなかで多くの方々から共通

# 一般社団法人 愛媛県建設業協会 今治支部 今治建設業協同組合

支部長 日浅 則仁  
理事長

他 会員 組合員一同

〒794-0085 今治市いこいの丘4番地2

☎ (0898) 22-1477 FAX (0898) 24-1398





株式会社 あきない商社の設立

なエンジン」が必要であると強く感じたところです。

この今治には、魅力ある産品、オンリーワンの地域資源が多くあります。こうした点在する産品、地域資源を線で結び、「オール今治」として面で売り込んでいくこと、また、モノの消費だけでなく、今治の良さを一つの物語として仕立て上げた「コト消費」に繋げていくこと、さらに、地元企業がしっかりと地域経済循環の中に入り、地域の稼ぐ力を創出すること、今治あきない商社には、これらの主導的な役割を担っていただきたいと考えています。

今治あきない商社は、(一財)今治地域地場産業振興センターが担っていた地域産品の販売・PR事業を強化するとともに、販売だけにとどまらず、様々な収益事業への思い切った転換を図る必要があると判断し、同センターの物販機能を切り離す形で設立しました。

た。経済情勢の変化に対応するための迅速かつ適切な経営判断ができる人材として、民間から事業経験が豊かな現役の経営者を社長としてお迎えしています。

設立の記者会見の席上で、阿部秀二郎社長からは、「今治全体を売り込んでいくことが使命である」、「数ある地産外商の手法において、地域を売り出す場として最も注目が高いのが『ふるさと納税』であり、寄附額で県内1位を目指す」という強い決意が示されました。

昨年度、本市のふるさと納税寄附額は約11億6,000万円と、八幡浜市の約19億6,000万円に次いで県内2位という結果でしたので、まずは、目標に掲げる県内1位を早急に達成し、近い将来に全国上位の自治体と肩を並べるべく、様々な取組みを進めていきたいと思います。

全国には、既に多くの地域商社が存在しますが、私は、その中でも、人口2万4,000人の町、茨城県境町に注目しています。ふ

して出された意見は、「人口減少による経済規模の縮小により、このままでは将来が見えない」、「国内外に向けてもっと販路を拡大しないとイケない」、「各社単独では新たな販売機会を確保することが難しい」、「行政の信用力をフルに活用できる地域商社が必要」といったものでした。改めて、過去の延長線上では対応できない状況を乗り越え、新たな一歩を踏み出すためにも、「今治を売り出す新た

 **マルマストリク。**  
今治・松山・宇和島・大洲・西条・四国中央・多度津

るさと納税を働さかいまちづくり  
公社が担い、本市の約5倍、60億  
円にもぼる寄附金を原資に「移  
住定住の促進」、「小学校における  
英語教育」、「自動運転バスの定時  
運行」など、全国的にも注目を集  
める政策に取り組んでおられま  
す。

まさに、今治あきない商社が目  
指すべき「一つのお手本」になる  
のではないかと考えています。持

## 行政分野のデジタル化では、市役所の「書かない窓口」、「行かない窓口」の実装を

—— 今治市では、デジタル化  
を加速させ、「スマートシティ今  
治」の推進に取り組むとともに、  
バリエーションの発電電力の活用な  
ど、カーボンニュートラルにも積  
極的に対応しています。主な施策  
をお願いします。

**徳永** 少子化により人口減少が  
加速する中、地方都市では、若年  
層の転出超過など、社会的な要因  
による生産年齢人口の減少が大き  
な課題となっています。

継続的な発展のためには利益を生む  
ことも必要ですが、「その利益を

地域にどのような形で還元してい  
くのか」ということが、地域商社  
の本質であると考えています。

今治あきない商社は、誕生した  
ばかりなので、直ちにそこに至る  
ことはできませんが、地に足を付  
け、先を見据えた経営によって、  
地域に愛され、必要とされる会社  
に育ってほしいと願っています。

本市も例外ではなく、高齢化す  
る職場を支える20代、30代の減少  
が顕著で、特に主要産業である造  
船、タオルなど製造業の働き手不  
足は、深刻な課題として捉えてい  
ます。

こうした現状を踏まえ、子育て  
支援の拡充など、人口減少対策に  
取り組む一方で、各分野に跨がる  
業務の効率化に向けては、行政の  
みならず、民間事業者のデジタル  
化も推し進めていく必要がありま

す。

そこで本市では、市民生活の質  
を高め、市民満足度の向上を図る  
ため、行政分野におけるスマート  
自治体への転換を促進し、市民生  
活やまちづくりなど、各分野にお  
ける課題解決に向けた地域社会の  
DX推進に一体的に取り組む「今  
治市デジタル未来戦略」ミライマ  
バリDXプラン」を策定しました。

「ミライマバリ」とは、「ミライ」と  
「イマバリ」を合わせた造語で、D  
Xを「目的」ではなく「手段」と  
して捉え、今治の未来を考えてい  
く姿勢をシンプルに表現した言葉  
です。今治の未来を描く際に「市  
民」を真ん中に据えて、市民や事  
業者の皆様と連携することで、日  
本のどこにもない、あたたかみの  
あるDXを実現していきます。

まずは、戦略を進めていくため  
のエンジンとなる「今治市デジタ  
ル戦略会議」の設置に向けて、現  
在、戦略会議の核になる2つのコ  
ンソーシアムが立ち上がり、相互  
に連携を図りながら、会議の体制

おいしさは、いつも自然から。



らくれん  
オンラインショップ  
QRコード

**らくれん**  
**四国乳業株式会社**

愛媛県東温市南方955-1  
TEL:089-966-1200  
FAX:089-966-1240

<http://www.rakuren.co.jp/>

づくりに取り組んでいるところで  
す。

今後、官民連携を軸とした「デジタル未来コンソーシアム」と、産業支援を軸とした「イノベーションコンソーシアム」の2つのコンソーシアムが、それぞれの役割を果たすと同時に、市民生活と行政を繋ぐ「まちづくり」を担うため、相互に支援・補完しながら戦略会議を進めていく予定です。

また、行政分野のデジタル化では、6月議会会で予算が議決された「書かない窓口」と「行かない窓口」を実装していきます。

「窓口での申請手続がわかりにくい」、「高齢で移動が困難」という課題に対して、窓口でのオンライン申請サポートによる手続きの簡素化、自分のスマートフォンから手続きが可能となる電子申請の導入を図るとともに、年明けからは、ご自宅の近くで、行政手続きや行政相談ができる「移動市役所」を始動するため、現在、準備を進めているところです。

行政のデジタル化は、業務の効

率化、省力化はもとより、住民サービスへの飛躍的な向上に繋がると確信しており、これからも戦略的に、アグレッシブに取り組んでいきたいと考えています。

一方、カーボンニュートラルの実現に向けては、今年度、本市の「地球温暖化対策実行計画」と「第二次今治市環境基本計画」が共に改定年次を迎えていることから、今治の本気度を示すことができるような、思い切った計画を策定してみたいと思っています。

現在の施策としては、愛媛県との連携により、市民の皆様には「家庭用燃料電池」、「家庭用蓄電池」、「ZEH（ネット・ゼロ・エネルギーハウス）」、「家庭用EV（電気自動車）」の購入に対する補助金交付のほか、6月補正予算において、産業界に向けた「中小事業者向けEV補助」と「急速充電設備設置補助」の制度を立ち上げました。

産業界への2つの補助は、愛媛県が4月末から開始した制度に対し、本市が上乗せして補助するも

ので、カーボンニュートラルの実現に向けては、県としっかり連携を図りながら、効果的な施策を推進していく必要があります。

もちろん、本市としても独自に、EV公用車の導入や本庁舎への急速充電設備の設置などを進めており、ごみ処理施設のバリクリーンで実施している「再生可能エネルギーの地産地消」の取組みは、「地域における脱炭素の教科書」と位置付けられ、「Retthinkアワード2023」を受賞しました。

さらに今後は、GX（グリーントランスフォーメーション）にも果敢にチャレンジしていきたいと考えています。本市のエンジンでもある産業界では、太陽石油と四国電力、三菱商事などが進めている「波方ターミナルを拠点とした燃料アンモニア導入・利活用協議会」の取組みなども、今治を代表するリーディングプロジェクトとして、大いに期待されています。

また、造船分野では、「水素など二酸化炭素を出さない燃料等を使う船舶の開発」なども想定され



## 太陽石油株式会社 四国事業所

ISO 9001. ISO 14001. ISO 45001. 認証取得

〒799-2393  
愛媛県今治市菊間町種4070-2  
TEL:0898-54-2500 Fax:0898-54-4156  
<https://www.taiyooil.net/>





ているほか、タオルの分野では、製品や部品、廃棄物を循環利用し続けながら、新たな製品を創るといったサーキュラーエコノミー（資源循環経済）システムが始まりつつあります。

こうした市内のGXに対する取り組みについて、関係者の皆様が一堂に会し、その知見や技術を披露、そして、未来を語っていただき、地域のカーボンニュートラルに向けた機運を醸成するシンポジウム

を予定しています。ここで出たアイデアや意見は、本市の地球温暖化対策実行計画にも、しっかりと盛り込んでいきたいと考えています。

「2050年カーボンニュートラルの実現」という目標は、やさしいものではありませんが、カーボンニュートラルへの挑戦は、地

域課題の解決や地方創生に繋がる絶好の機会と捉えています。

産業界にGXという新しい風を吹き込むことで、産学金官が連携し、さらに「攻め」の姿勢のもとで、スピード感をもって、環境と経済の好循環を創出し、持続的に成長・発展する今治の実現を目指していきます。

## デジタル人材の育成や企業のDX推進等の 拠点となる「SUNABACO 今治」

—— 株SUNABACOと連携し、様々なチャレンジも始まっています。この一連の取組みをご紹介します。

**徳永** 株SUNABACOと本市は、昨年12月に企業立地連携協

定を締結し、今年の6月、全国で9番目の拠点となる「SUNABACO今治」を市内中心部に開設していただきました。

本市では、市民生活や産業をはじめ、あらゆる分野でDXを加速させていくにあたって、その担い手となるデジタル人材の育成とリ

スキリングの支援が非常に重要であると考えており、「SUNABACO今治」では、市民がプログラミング技術等を習得し、就職や

職場でのDXに繋がっていくための事業が実施されています。

8月には、2か月間のカリキュラムを終えた1期生の卒業制作発表会が開催され、私も参加させていただきました。IT関連の仕事

をされていたという方も一部おられました。企業にお勤めの方、育児などで離職し再就職を目指す方など、様々なキャリアの方々、

「SUNABACO今治」オープニングイベント

昔ながらの親切な旅行屋さん (松山で66年)



いよ、伊予... 出番です!!

**社員旅行、研修旅行**

おでかけになりませんか!!

コースから予算まで親切な係員がお伺いします



株式会社 **日本交通社**

松山市勝山町1-18-10 (勝山町電停南)  
☎089-931-6060 FAX 089-941-6211

限られた期間で協力して制作に取り組み、発表された中には、「ぜひ本市のサービスで提供したい」と思うほど完成度の高さに驚かされた作品もありました。

(株)SUNABACOの中村良代表は、「家庭のＩＴリテラシーと、子どもの将来の所得は正比例する」というお話をされていますが、本市がデジタル人材の育成やDXを推進していくにあたって、その目指すところも、まさに市民の所得向上と地域経済循環です。

人口減少が避けられない中で、ヒトにしかできないことと、機械やデジタルに任せることを区別して使い分けていかないと、様々なサービスが維持できなくなる時代が、もう目の前に来ています。特に地方において、人や企業が都市部に劣らない収入を得ながら、やりたいことに挑戦できる環境を整え、まちの活力を高めていくため、「SUNABACO今治」には、人材育成の拠点として、多くの地元企業も巻き込みながら、より一層力を発揮していただけるものと

大いに期待しています。

さらに、「SUNABACO今治」の開設を契機に、「今治イノベーションコンソーシアム」を立ち上げました。10月上旬には、キックオフイベントを開催したところですが、「ＡＩ技術を活用して企業のDXを牽引できる人材の育成」、「スタートアップの育成・誘致」、そして、「オープンイノベーションの推進」を3本の柱として、これから様々な取組みを展開していく予定です。

## 地域の宝であり、地域の未来そのものであ る子どもを市民みんなで育てるシステムを

—— ところで、岸田内閣は、少子化・人口減少対策として、「異次元の少子化対策」を打ち出しています。この政策の方向性などをどう評価されますか。

**徳永** 次元の異なる少子化対策実現のために、「こども未来戦略方針」が策定されたことは、政府の強い意志の表れであると受け止めるとともに、若者人口が急激に

このコンソーシアムでは、(株)SUNABACOをはじめ、多彩な業界のトップランナーをアドバイザーに置き、金融機関・ベンチャーキャピタルや大学など、関係機関と連携した支援体制を抜けていきながら、海事やタオルをはじめとする製造業はもとより、観光や建設業、農業とＩＴを組み合わせた事業など、地元企業とスタートアップによる今治ならではのイノベーションを全力で応援していきたいと考えています。

減少する2030年までを「日本のラストチャンス」と明確に示されたことに、改めて危機感を覚えています。

それと同時に、「加速化プラン」として今後3年間の集中的な取り組みについて、経済的支援の強化や教育、医療の負担軽減を打ち出したことに加え、共働き、共育ての推進が盛り込まれたことは、社会

の急速な変化を捉えたものだと感じています。若い世代の多様な働き方を社会全体で支え、地域一体で子どもを育てていくことが、子どもを持つという人生の選択肢を後押しすることにもなるのではないのでしょうか。

私たちの地域で心豊かに育つことも私たちは、地域の宝であり、地域の未来そのものだと思います。本市でも、核家族化がさらに進行する中で、地域の宝である子どもを育てる親世代への支援はもちろん、地域の住民がそれぞれの強みや経験を生かして、地域の子育てに参画するシステムを構築することが求められています。

私が公約に掲げる「女性が輝く、こどもが輝くやさしいまち今治」の実現のためには、地域においてサポートを受けながら、安心して子どもを産み育てられる環境を整うことが必要です。昨年度から推進している「今治版ネウボラ」、この妊娠期から18歳までの子育て期を伴走型支援で支える取り組みは、政府の掲げる異次元の少

子化対策実現のための「こども未来戦略方針」により、さらに厚みを増すと確信しています。

## 「ネウボラ政策課」を中心に、子育ての相談支援を受けられる体制を強化

— その「今治版ネウボラ」中、「こどもが真ん中」の視点で、など、「こどもまんなか社会」の「今治」で生まれ育つこどもの「子育て」を全ての市民とともに、行い、育てしやすいまち「今治」を実現していくことに全力で取り組んでいます。

徳永 本市では、「市民が真ん

中」が真ん中」の視点で、

育てしやすいまち「今治」を

現していくことに全力で取り組

んでいます。

今年6月には、今治市と

して「こどもまんなか応援サ

ポーター」を宣言しまし

た。こども家庭庁が推進す

る「こどもまんなか社会」

を実現していく取組みであ

る「こどもまんなか応援サポーター」は、まさに、子育て世代を伴走して支える「今治版ネウボラ」の考えと一致するものです。社会全体でこどもの育ちを支え合うことを市民の皆様へ広く呼びかけ、共感していただくことで、こどもにやさしいまちを実現する機運醸成に繋がると考えています。

本市では、これから出産を迎える妊婦さんや子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境整備のため、「ネウボラ政策課」に相談機能を集約しています。特に、妊娠期からの初動に重点を置き、子育て世代包括支援センターと保健センターが中心的役割を担う形で、伴走型の相談支援と経済的な支援を一体で実施しています。母子健康手帳の交付時の面談、妊娠8か月面談において、子育て応援ヘルパー事業や産後ケア事業など、各種支援サービスの登録・利用を案内し、着実に切れ目のない相談支援へ繋げることを目指しています。

加えて、市内各所の子育て広場や保育所などを相談サテライトと位置付け、今年度も島しょ部の「親子ひろば」や、どの地域からでも通える放課後児童クラブを新設するなど、しっかりと相談支援を受けられる体制の強化・拡充を図ってきました。

経済的な支援としては、先に述べました応援金や応援券、そして、8月から開始した「18歳に到達する年度末までの子ども医療費助成」などの負担軽減策を実施しています。また、「今治で生まれただこどもには、今治ならではの良さを知ってもらいたい」との思いから、妊娠8か月面談において、今治タオルのフード付きバスタオルなど、「こどもが真ん中ギフト」をプレゼントしており、お母さんたちから大変ご好評をいただいで



地域子育て支援拠点「ばりっこ広場」



弁護士法人 **たいよう**

愛媛の躍進は地域企業と法律家の連携で

愛媛県弁護士会所属 代表弁護士／吉村紀行

愛媛県 松山事務所

愛媛県 大洲事務所

☎089-907-5601

☎0893-59-0353



しまばら海道を一豊 四国のランドマークタワー



平成23年4月15日 新館オープン。客室数355室。四国最大級のホテルとして生まれ変わりました。



今治国際ホテル

〒794-8522 愛媛県今治市旭町 2-3-4  
TEL0898-36-1111 FAX0898-36-1139

<http://www.imabari-kokusai-hotel.co.jp/>

いるところですよ。

さらには、こどもを持ちたいという思いに寄り添い、しっかりとお支えするため、不妊治療に要する費用の補助を拡充しました。本市では、従来から保険適用の不妊治療費を全額補助し、県内では最も手厚い支援を実施してきましたが、今回は先進医療に要した費用についても、5万円を上限に助成させていただくものです。

また、保護者の方に心身ともに健康で、安心してこどもを育てていただくために、新しい試みとして、8月から乳幼児・保護者の同時健診事業「パパママすまいる健診」をスタートしました。自分の健康を後回しにしがちな子育て世

代に対して、3歳児健診に来場する機会に合わせて、保護者も一緒に健診を受けてもらい、自分の健康に目を向けて、親子そろって元気に過ごしていただくというものです。

今後は、潜在保育士等の掘り起こしを進め、現場への就職・復帰を促し、さらなる子育て環境の充実を図っていきます。

ハード整備という点では、公園を「今治版ネウボラ」の「遊び場サテライト」と位置付け、市内各所の規模の大きな公園では、乳幼児が安心して遊べる専用スペースの新設や、地域ごとの特色を活かしたりリニューアルを予定しています。

そして、「今治版ネウボラ」の中核を担う「拠点施設の整備」についても、検討を進めているところです。今年3月には、市の附属機関である「子ども子育て会議」から、施設整備に関する答申をいただき、「(仮称)今治版ネウボラ拠点施設整備基本構想」を策定しました。

「つどい つながり はぐくむ みんなの居場所」こどもが輝く 未来を創る」の基本理念のもと、拠点施設に多くの世代が集って支援の輪が広がり、次世代を担うこどもたちを地域の人々で一緒に育む、そんな機運の醸成に繋がる「こどもが輝くやさしいまち今治」の象徴的な存在にした

この拠点施設は、相談機能や子育て広場を備えた「子育て世代活動支援センター」、市民の健康を守る「保健センター」、こどもたちが勉強したり遊んだりできる「児童センター」、音楽やダンスの発表なども行える「地域交流センター」といった機能が一体となった、こどもも大人もわくわくと楽しめる複合施設として実現できればと考えています。

これから、ヒアリングやワークショップなどで、改めて市民の皆様の声を丁寧にお聞きしながら、実現に向けてしっかりと検討を進めていきます。